



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/27 (月)	+ 800	+ 7,700	+ 8,500	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 5,200		日: 景気先行CI指数 (11月)
1/28 (火)	+ 1,000	▲ 6,000	▲ 5,000	流動性供給			日: 基調的なインフレ率を捕捉するための指標 米: FOMC (1日目)
1/29 (水)	+ 1,000	+ 7,000	+ 8,000				日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月18・19日分) 米: FOMC (2日目)
1/30 (木)	+ 1,000	▲ 3,000	▲ 2,000	国債発行 (GX5年)	気候変動 ▲ 47,300		日: 氷見野日銀副総裁が一橋大学政策フォーラムで講演 欧: ユーロ圏GDP (4Q、速報値)
1/31 (金)	+ 400	▲ 1,400	▲ 1,000				日: 東京CPI (1月) : 有効求人倍率 (12月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,200億円増加の518兆9,300億円から始まった。その後、共通担保オペのエンドや国債買入オペ等の要因により増減し、24日は523兆4,300億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。また、日銀は24日の金融政策決定会合で政策金利の0.50%程度への引き上げを決定した。

ターム物は1W~1M物を中心に、決定会合前0.226%~0.55%、決定会合後0.53%~0.57%のレンジで取引された。

来週の予定は、国内では、29日に日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月18・19日分) の公表、海外では28日・29日に米FOMCなどが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.55 ~ 0.80
6M	0.60 ~ 0.90

<レポ>

足許GCは週初+0.24%~+0.25%のレンジで出合い始め、輪番オペがオファーされた22日以降は+0.23%~+0.24%で多く出合いが見られた。

金融政策決定会合の2日目となる24日は+0.40%近辺から出合い始め、後場には+0.10%下回る水準まで低下した。

SC取引は2年460~468回債、5年155~175回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40近辺
CP 3M	0.50 ~ 0.60

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,300億円で、週間償還額の1兆6,000億円を下回った。発行残高は先週末時点の25兆9,594億円から、1月23日時点で25兆6,659億円に減少した。発行市場は、機械、建設業、小売業、ガス業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、金融政策決定会合での政策変更を織り込んだレートで推移し、1M物から3M物で、0.40%台前半から0.60%台前半の出合いとなった。

来週の償還額は、3兆1,000億円となっている。発行市場は、月末スタートの大量発行により、活況が見込まれる。発行レートは、1M物は0.50%台前半、3M物は0.60%近辺からの出合いから始まり、レートの落ち着き所を探る展開になるだろう。

<TDB>

23日の3M (1283回債) の入札は、最高落札利回り0.3733% (前回債0.3653%)、平均落札利回り0.3657% (前回債0.3544%) となった。

来週の入札は31日に3Mが予定されている。